

研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム

未来共創分野 フェーズ1

2025年度新規採択プロジェクト・審査総評

■採択プロジェクト

拠点名称	代表機関	プロジェクトリーダー（所属・役職）	幹事自治体	幹事機関
オミックス・IoT・AIで健康と社会を最適化する山梨ヘルスケア・セントラルシティ未来共創拠点	山梨大学	大岡 忠生（山梨大学大学院総合研究部 准教授）	山梨県、山梨県中央市	株式会社はくばく、シミックホールディングス株式会社、株式会社Taomics、公益財団法人山梨総合研究所
農業と先端技術の融合によるアグリビジネス共創拠点	豊橋技術科学大学	上原 一将（豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 准教授）	豊橋市	豊橋信用金庫
ナノコーティングが再生する環境未来都市共創拠点	神戸大学	杉本 泰（神戸大学大学院工学研究科 准教授）	神戸市	川崎重工業株式会社

■審査総評 プログラムオフィサー：養王田 正文（東京農工大学大学院工学府 特任教授）

今年度より開始した本プログラムの未来共創分野（フェーズ1）には、49件の応募がありました。これらの提案について、未来共創分野の特別アドバイザー、アドバイザーの協力を得て、外部専門家による書面査読も参考としながら厳正に審査し、3件のプロジェクトを採択（採択率6.1%）しました。

今年度の審査では、地域未来社会ビジョンがプロジェクトに共通する目標・価値観として十分に共有され、同ビジョンからターゲット及びキーサイエンス等を踏まえた研究開発課題の設定等のストーリーが具体的かつ説得力があること、また、代表機関による産学官連携マネジメント機能の高度化への取り組みが十分であることを重視しました。

その結果、若手研究者であるプロジェクトリーダーらが有するキーサイエンスに独創性・優位性があり、その研究開発のための環境整備に意欲的に取り組む提案や、地域未来社会ビジョンの将来の実現と波及効果が期待できる提案を選定することができました。これらに共通することは、地域の特色を捉えつつ社会課題解決に向けて大学等、自治体、企業などのステークホルダーによる議論が十分なされた結果、ある程度の産学官共創の下地ができており具体的かつ的確な提案内容となっていると考えています。

一方で、不採択となった提案のなかにも興味深い提案が見受けられました。これらについては、研究開発中心のフォアキャスト的な提案となっていないか、地域の理解・協力が得られているか、コスト試算や代替技術等との比較優位性など社会実装に向けた課題が検討されているか等を吟味し、より実行可能性の高い提案内容にブラッシュアップされ、次年度の応募に向けて入念な準備をされることを期待します。不採択となった課題のうち、比較的评价が高かった以下の2提案について特定課題調査を実施することとしました。

（特定課題調査を実施する課題）

- ・土産業と土道文化を醸成するジオセラミックス共創拠点（北海道大学・鈴木 栞助教）
- ・ヒトとサカナが集まる国際水産フードテック共創拠点（東京海洋大学・柴田 真理朗准教授）

※特定課題調査について

応募提案のうち、採択には至らないものの地域の社会課題解決に寄与し得る優れた評価結果を得たものについて、プログラムオフィサーの判断により、少額かつ短期間で提案の内容を補完することを目的とした調査を実施するものです。本調査を実施する課題は、次年度に本プログラムの公募がある場合、当該公募へ応募することを条件とし、優先的な扱いを受けることなく当該年度の事前評価に付されます。なお、特定課題調査に直接応募することはできません。

※来年度の公募実施について

来年度の公募実施は、現時点では決定していません。来年度の国からの予算措置状況に応じて、公募の実施や内容が決定されます。